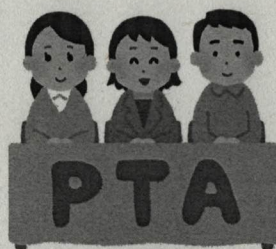


「市P連って何やってんの？」

という事を説明するのに市P連ホームページがあるのですが
見にくる人が少ないのでこんなものを作ってみました

『市P連の見方』

制作・春日井市小中学校PTA連絡協議会の役員



この資料に書いてあること一覧

1. 市P連とは？
2. 何をやってるのか？あて職って？
3. 『動員』その流れについて
4. 喜びと悩みと
5. 最後に、何が言いたいかというと

1. 市P連とは？

正式名称は「春日井市小中学校PTA連絡協議会」と言います。

長いですね。

なので、喋る時に舌を噛む恐れがあるのと時間短縮のために「市P」または「市P連」と略して呼ばれています。

規約によると会員は市内の小学校37校、中学校15校の計52校の単位PTAの代表つまり、PTA会長、母親委員長の2名、および校長先生から構成されています。分かりやすく言うと年に一度の市P連総会の時に集まる156名が「市P連会員」なんですね。案外多いんです。（学校数は2018年4月現在）

更に、市P連内に母親委員会運営委員会があります。

市内中学校13ブロックごとに代表1名を選出しブロック代表母親委員、各校の母親委員長52名で構成される運営委員会があります。

そして、市P連役員は

会長	1名	副会長	3名（内1名は校長代表）
母親委員長	1名	母親副委員長	2名
母親委員会庶務	1名	監査	2名
庶務	1名(校長先生)	会計	1名（校長先生）
顧問	1名		

の計13名で構成されており、一般的にこのメンバーを指して「市P」と言われ諸々の行事の企画運営をしています。

そして、**実は市P連運営の肝心要は事務局学校担当者の教頭先生なのです。事務局学校の教頭先生は市P連きっての激職と言えるのです。**

通常でも教頭先生は学校経営の要ですから当たり前忙しいのです。そのただでさえ忙しいところへ「市P連の仕事」が付加されるわけですから、その多忙さときたら想像を絶します。というわけで、市P連は14名で活動しているのです。

2. 市P連は何をやってるのか？あて職って？

市P連役員は次のような活動をしています。

- ・研究発表大会やPTA会長会議等の主催事業の立案・運営方法の検討、あて職の活動の情報交換。
- ・各種研修事業の充実、意見・情報交換、研究発表会の開催等を行っています。

と簡単に終わってしまうと意味がありませんのでその詳細を挙げてみましょう。

年6回の定例役員会は約3時間、内容のギッシリ詰まった会議です。役員会前後にはSNSを利用して情報交換や確認作業をしています。会議の内容はP長会、母長会、研究発表大会の打ち合わせ、単Pからの質問などについて若干の雑談を交えながら熱く話し合います。

そして、市P連役員にとって重要な仕事として『あて職』があります。「充て職」「当て職」とも書きます。聞きなれない言葉ですが主に春日井市の教育行政に関する会議や委員会等に保護者代表として出席するのが仕事です。役職ごとに割り振られた『あて職』は以下の通りです。

『会長』

- ・安全なまちづくり協議会・市青少年健全育成推進協議会・春日井スポーツふれあい財団・食育推進給食会
- ・安全対策連絡調整部会・図書館協議会委員・学校保健会・通学区域審議会・次世代育成支援対策地域協議会

『副会長』

- ・学校保健会・いじめ・不登校対策協議会・食育推進給食会・男女共同参画審議会
- ・男女共同参画市民フォーラム実行委員会

『母親委員長』

- ・学校給食センター運営委員会・なかよし教室運営委員会・春日井市社会福祉協議会・学校給食運営委員会
- ・春日井市放課後教室運営委員会・市更生保護協会

『母親委員会・庶務会計』

- ・学校給食運営委員会・ポイ捨てふん害防止推進市民協議会

『監査』

- ・食育推進給食会・社会教育審議会・交通安全推進協議会・緑化推進協議会・食育推進給食会

『あて職以外で参加するもの』

- ・教育懇談会・教育フォーラムinかすがい・かすがい男女共同参画市民フォーラム・母親代表役員理事合同研修会
- ・納涼大会愛のパトロール・実践体験文審査・人権教育指導研修会・父母教師の教育を考える会・教育研究愛知県集会
- ・春日井市の父母と教師を語る会・県の父母と教師の教育を語る会・ポイ捨てふん害防止啓発キャンペーン運動
- ・明るい社会づくりの会・PTA全国研究発表大会・東海北陸ブロックPTA研究大会・愛日地区PTA指導者研究会

『市P連主催行事』

- ・総会・PTA会長連絡会議（2回）・母親委員会運営会議（3回）・春日井市PTA研究発表大会

また、会長は愛知県小中学校PTA連絡協議会 理事、尾張小中学校PTA連絡協議会 理事、愛日地区PTA 理事も兼務します。

母親委員長は母代・役員・理事合同研修会、尾P連母長研修会に参加してます。

それぞれの会議などへの参加回数は年平均2~3回で文書会議や開催されないものもあり出席しない場合もあります。

ただ数が多いため市P連役員が一年間に参加するPTA活動は

会長で約60回、副会長・母親委員長で約40回、他の役職で約30回

という数字になります。ちなみに会長のPTA活動はピーク時に週三回というペースが数週間続きます。これはなかなかハードスケジュールです。これには「ちょっと用事で市役所に」とか「ちょっと手伝いで事務局に」という回数は含まれていません。

活動状況は市P連ホームページに随時掲載されますが訪問者が少なくほとんど知られることはありません。

3. 三つの仕事について

市P連の仕事は大きく分けて三つになります。それをざっくりと説明します。

①市P連主催行事

過去の資料を元に定例役員会で話し合います。講演会がある場合は講師の選定も議題になります。

PTA会長会議や母親委員会はアンケートを元に改善点を話し合い、またテーマに合わせた内容になるよう工夫しています。ちなみに皆さんに書いて頂いたアンケートは市P連ホームページに掲載されています。

研究発表大会は市P連の一番大きな主催行事ですので役員だけでは足りず単位PTAの皆さんに応援に来て頂き会場運営を手伝ってもらいます。役員が一番緊張する行事でもあります。

②動員

PTA関係や教育機関の行事・講演会に参加しています。

役員がメインとなって参加するのが全国PTA大会や東海北陸ブロックPTA研究大会や教育研究県集会、役員だけでは足りないので単位PTAさんにも協力して頂く人権指導者研修会などがあります。

動員依頼は県P連や尾P連、春日井市の子ども政策課や市教育委員会、教員組合などから市P連事務局に入り、そこから市P役員や各単位PTAさんに連絡が入ります。人数は先方から指定されておりますが学校規模や都合などでバラツキがあるため事務局担当の先生が調整をされています。

③あて職

前項でも書いたように市P連は多くのあて職に出席しています。主に春日井市の教育関係や市の財団へ保護者代表として出ています。もちろん役員は保護者というだけでそれぞれの分野の専門知識が無い状態ですので事前に調べたり先生方に聞いたりして勉強します。現状報告や確認だけでなく条例の制定や方針の変更など重要な議題に関わることもあります。春日井市の子ども達や保護者の皆さんに直接関係することですのでとても緊張する場でもあります。

また、PTA関係者から問い合わせを頂いてる問題や課題を専門家や専門職の方にお聞きすることもあります。その場で分からないことは後日きちんと答えて頂いてます。

4. 喜びと悩みと

市P連役員の経験談を集めてみました。

皆さん、PTA活動の経験豊富なベテランさんばかりですが単位PTAと市P連との仕事の違いに戸惑うことも多かったと聞きます。

「喜びと悩み」を率直に書いていただきました。

「喜び」

- ・先生方と同じ視点や思いで意見を出し合った事や私達と同じ保護者としての想いを聞いたことが市P連役員を引き受けて何よりのご褒美となりました。
- ・一言で言うてしまうなら、とっても楽しかった。他地域の方々との知り合いが増え、春日井市の沢山の活動や仕組みを知ることができた。
- ・役員が分担して引き受けているあて職は参加回数は相当ながらその内容はどれも大変有意義であり、新しい知識や考え方、物の見方など自分自身の勉強、成長に繋がったと思います。
- ・初めて市Pのお役目をいただき、どのような存在なのかも何をすべきかも全く想像もつかない状況に戸惑いと不安を覚えながら、引継ぎの会場に向かったのを鮮明に記憶しております。実際は「市P連」のお堅いイメージとは全く違って、温かな雰囲気の子供たちのことをとっても考えている会であることに、単Pでの活動以上に感じられるものであった気がします。
- ・PTAは子ども達が学校で楽しく過ごせるように、先生方と連携を図るとても良い場所だと思います。少しでも学校と家庭、地域の絆を深める活動に参加する事が出来て良かったです。
- ・単P役員として出席していた市P連行事の裏側、運営の仕組みがわかり、勉強になったと思う。学校とPTAというつながりだけでなく、市や教育委員会などとのつながりも見えて、奥が深いと感じた。自分の地域だけではなく、いろいろな学校の方のお話が聞けてとても勉強になり、新たな人とのつながりが持てたことにとても感謝している。
- ・あて職の仕事は普通なら経験できない事なので刺激になりました。とても楽しみながら一年を終えることができたので引き受けてよかったと思っています。

・共に活動した役員はもとより、多地域の方々との交流・研究発表会等で、各校が抱える問題の相違点や有効な活用法を知ることができました。また、様々な会議への出席や各団体の活動への参加を通して、子ども達がどれだけ多くの方に見守られ育っているのかを改めて感じ、感謝の一言に尽きます。

「悩み」

・残念に思うのは、所属校での認知度の低さ。顧問としての役職が付いているものの、市P連とは何か分からなく、活動内容や頻度も分からないままとなっていた。

・直接学校へ出向く、また子供達と接する機会がほぼ無いものが中心で「すべては子供達のために」というPTAの大前提からは、ややもすると少し離れた印象であり、よって残念な気持ちになってしまったことは否めません。

・市P連役員は各小中学校のブロックから選出された市P連役員でありながら、所属する学校とのPTA執行部との連携があまり密に取れていないのが現状。

・市P連があまりに知られていない事が気になりました。やっていることも含め、事務局が学校にあり、毎年変わって色々な学校から役員が選ばれていることなど保護者や先生方に周知して欲しいと思いました。活動回数はやっぱり多いです。

この経験談を読んで頂ければお分かりと思いますが、6対4か7対3で「喜び」が多いのです。これはやはり市P連は刺激的な仕事が多く、やりがいと責任感を感じる事でモチベーションが高い状態になるからだと思います。

ただ、市P連ならではの悩みもあります。例えば所属校に行った時に

「あなた発表会の時になんで司会なんかやってたの？」

などと言われてしまう事があります。

「こんなに市P連を頑張ってるのにあなたは知らないの!？」

という心の叫びが口から出そうになるのですが、先生ですら市P連の活動をご存知でない方が多いので仕方のない事かもしれません。

5. 最後に、何が言いたいかというと

これまでの話で「市P連って凄く大変」と思われたかもしれませんが、それは間違いなく正解です。子育て中の保護者がボランティアでここまでやるのは確かに大変です。

実はこの「市P連の見方」を作成するにあたり役員の皆さんに一年間の活動チェックをお願いしました。

「市P連って忙しいなあ」とは思っていました。今更ながらその出席回数の多さを知ることになり驚いた次第です。それも年度の最初に「はい、お願いしますね」と全く初めての役職を引き受けて活動開始して、走りながら仕事を覚え、こないしていくという感じです。仲間がいないと早々に挫折すること間違いありません。

また、市P連は何か特別な権力を持ってるかのように思われてますが、そのようなものは一切ありません（笑）P長会や母長会などで出た疑問や要望や改善点を解消できるように先生方や市にお願いする事はありますが、誰かに命令を出すような権力はありません。おそらく市P連が知られていないために生まれた誤解なのだと思います。

この様に年間数十回のPTA活動に参加し、周りから不思議な目で見られる市P連役員ですが、一年終わって感想を聞くと「市P連役員をやって良かった」なんです。ちょっと変な人の集まりと思われるかもしれませんが、皆さんいたって健全です。つまり、大人になっても新しい世界を知るというのはある種の高揚感を伴いますし、それが仲間と共有できるわけですから面白くて楽しくなるわけです。

で、最後に、何が言いたいかというと。

市P連って楽しいんですよ。機会があれば皆さんも是非どうぞ。